

気象情報にみる秩序のローカリティ

——青森県内テレビ局「市町村別の明日の天気予報」を事例に——

太 田 美 奈 子

1 はじめに

1-1 問題設定と研究対象

テレビというメディアは、草創期より中央集権的な歩みを進めていった。NHKは各都道府県に放送局を整備し、民放はキー局を中心とした系列ネットワークが全国に形成されている。私たちは日本中どこにいても、地域によってチャンネル数に違いがあるものの、同じ番組を概ね視聴できるのである。

一方で、ローカル局の番組が一斉に顔を揃える時間が存在する。夕方6時台、ローカルニュース番組の時間帯である。早いところでは午後3時台後半から始まるキー局のニュース番組、そして午後7時からの「NHKニュース7」に挟まれたこの時間帯には、ローカル局が自主制作する地域のニュース番組が並んでいるだろう。各局は放送エリア（一部地域を除いて県域）の情報を提供しており、住民にとって生活圏のニュース番組となっている。放送研究においてローカルニュース番組は、主に「ローカリティ」、つまり地域性の側面から取り上げられてきた。樋口喜昭はこのローカリティをめぐって、放送研究が「一見ねじれた問題意識」をもって展開してきたと指摘する。放送というコミュニケーションは、地理的な隔たりを解消し、普遍的な指向性を持つという特徴によって評価されてきた一方で、地域的差異に由来する文化の「特殊性」を重視し、地域社会への貢献が求められてきたのである。その理由について樋口は「戦後、地方自治を重んずる米国に範をとったローカリズムを日本社会にも根づかせるという政治的・文化的機能が日本の放送においても期待され、制度的にはその理念に基づいて放送が営まれてきたからである」と述べている（樋口 2014: 67）。米国を範とした結果持ち上がったねじれた問題意識は、日本のローカル

局に多くの負担を強いる結果となった。そして、放送研究にローカリティを論じる必要性を生じさせている。

本稿では、盛んに議論されてきた放送のローカリティ研究を背景として、夕方6時台のローカルニュース番組終盤に登場する、気象情報のコーナーに着目したい。気象情報は、科学的な分析とそれに基づく予報を伝えているのであり、ローカリティの発露は見られないと思われるかもしれない。しかし、「自然」な現象を「科学的」に分析して表象するという、一見ニュートラルに見えるテレビの気象情報について、小林直毅は「気象という現象を限定的な時間と空間における、限定的に可視化された項目へと縮減させ、それらによって構成された気象情報をニュースとして制作することは、きわめてポリティカルな性格を帯びているといえるだろう」と指摘している（小林 2005: 177）。例えば温暖化やオゾンホールが発生など、人為的な要因で発生した長期的で広範な変動はほとんど捨象され、短期的で限定された空間の天気が「わかりやすく」「役立つ」ニュースとして提供されるのが今日のテレビにおける気象情報であるという。

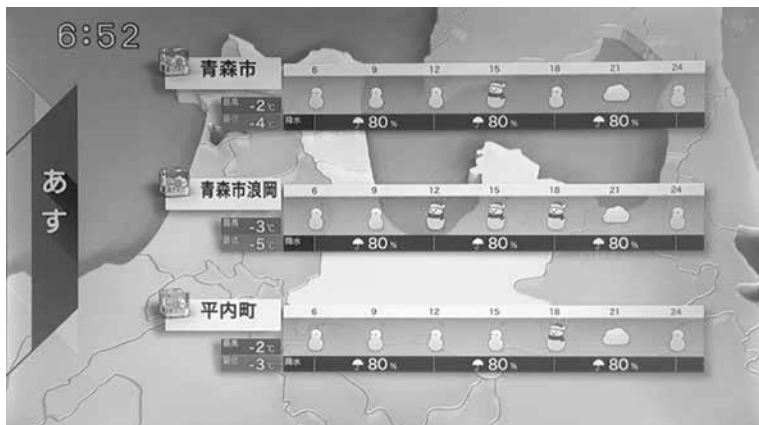


図1 R A Bニュースリーダー「40市町村の明日の天気」の一画面

さらに小林は、画面上で何度も日本地図が用いられ、都道府県の区分、もしくは主要都市の提示によって天気が表示されるという点について、「気象情報

で国土を見聴きするというイデオロギー的な身体作用が導き出されることで、ディスコースを分節化するシニフィアンや質料に従属した、文字通りの、想像の空間としての国土のイデオロギー的¹主体が算出されるようになる」と述べ、テレビの気象情報について「これが今日、国土の主体を絶えず産出する風景の一つなのである」としている（小林 2005: 190、傍点は小林による）。気象情報における表象は、小林の言うように、多分にポリティカルなディスコース実践なのである。

ローカル局の気象情報において小林の指摘から改めて着目したいのが、終盤に登場する「市町村別の明日の天気予報」である。県内各市町村や地域の天気予報を紹介するコーナーとなっている。ここで注目したいのは、表示される各市町村の順序である。北から南、西から東などの方角や、都市の規模の順番など一定のルールで自治体の天気が読み上げられるのではなく、地図上を縦横無尽に動いて天気が紹介される様子²に、例えば旅先のホテルでテレビのスイッチを入れた人は、しっかり見ていなければ、旅先の自治体の天気を見逃してしまうかもしれない。順序のルールがわからず、戸惑うのである。その地域に居住する人々にとっては当たり前³の順序であるという点を踏まえると、この順序こそ、小林の言うポリティクスを含んだローカリティの表出の場であるといえよう。ローカル放送がこれまで担ってきたローカリティとは、地域に寄り添った番組内容や、地域性の表象だけでなく、このような地域特有の秩序でもあるのである。

ここでは「市町村別の明日の天気予報」について、地図上を縦横無尽に動いて天気が紹介されている県の一例として、青森県内地上波テレビ局4局の番組を分析対象とする。「地図上を縦横無尽に動いて」とは勿論県外から訪れた人の目線であり、青森県に住む人々にとっては慣れ親しんだ順序である。第2章ではまず、各局の気象情報について、その全体の内容を明らかにする。各局ともに「市町村別の明日の天気予報」に多くの時間を割く様子が浮かび上がる。第3章では、「市町村別の明日の天気予報」の分析に入る。続く第4章では分析の考察として、市町村の紹介の順序について、各局の共通性と差異を明らかにし、青森県における秩序の内実を明らかにする。

テレビというメディアには、気象情報と親和性がある。若林悠は、気象庁が1980年代に整備した短期間予報について、「速報性のために新聞ではなくテレビに適合的」であったと指摘する（若林 2019: 249）。さらには、「『ひまわり』の画像も動きが加わることで人々に視覚的・直観的なイメージの把握が可能」となり、「加えてテレビは、様々な工夫を凝らすことで伝達手段の多様化が可能であった」という（若林 2019: 249）。テレビは1970年代後半から、その速報性と映像による表現の豊富さゆえに、気象情報の情報を得る主要なメディアのひとつとして人々に求められたのである。「お天気キャスター」の登場やそのほか様々なパフォーマンスなど、各テレビ局は気象情報をテレビ的なコンテンツへと読み替えていくことで番組の人気を獲得していった。

テレビの影響力が落ち、インターネットが台頭しているといわれる現在であるが、特にローカル局の気象情報は、依然重要な位置を占めていると考えられる。その理由はローカル局が提供する情報の詳細さにある。例えば1月の青森県は、雪の降る日が多い。インターネットで天気を検索すると、予報に雪のマークを発見するが、それだけでは情報が不十分と感じる人は多いのではないだろうか。雪が降るといふ予報だけでなく、降雪量や道路凍結情報、水道管凍結情報、そのほか、気象予報士やアナウンサーが解説する雪の降り方についての情報が、青森県に住む人々の生活に関わってくるのである。降雪量や道路凍結情報は道路の渋滞に大きく関わるため、人々は翌朝家を出る時間を考えるだろう。水道は凍結すると生活に大きな支障があるため、事前の対策が必要である。海上の情報は、漁業関係者や船舶を運行する人々にとって重要である。ローカル局の提供する気象情報が、生活インフラのひとつとなっている人々は少なくないはずだ。

県内自治体がはじめて設置したケーブルテレビ局、田子町ケーブルテレビジョンは開局に際し3つの自主制作チャンネルを揃え、そのうち1つは「お天気チャンネル」であった¹。町内7ヶ所に気象ロボットを設置し、気温、地温、風向を計測、放送するというものである。田子町の天気を正確に把握し、農業を中心とした産業の振興に役立てようという意図があった。田子町は地域によって気温などの違いが大きいいため、7ヶ所の計測は有益であった（田子町

1996)。また頻繁に伝えられた天気予報は、農作業の計画に役立ただろう。田子町ケーブルテレビジョンがチャンネルのひとつを天気割に、地域の生活や産業には詳細な天気情報が欠かせないのである。

1-2 研究方法

平日夕方6時台のローカルニュース番組として、青森放送「RABニュースレーダー」(18:15~19:00)、NHK青森放送局「あっぶるワイド」(18:10~19:00)、青森朝日放送「スーパーJチャンネルABA」(18:15~19:00)、青森テレビ「わっち!!ニュース」(18:15~18:56)を研究対象とする。「RABニュースレーダー」と「あっぶるワイド」は2021年1月4日、「スーパーJチャンネルABA」と「わっち!!ニュース」は同年1月5日に放映されたものを録画し、それぞれ分析に当たった。先行研究としては、テレビの気象情報について扱っているものを読み進めた。しかし水出幸輝が「日本のマス・メディアに登場する天気予報の歴史は体系的に整理されてこなかった。天気予報を対象としたメディア研究も数が限られてしまう」と指摘するように数が乏しく(水出2020:70)、ことにローカル局の気象情報となると見当たらない。ローカリティについては放送研究に蓄積があり、これまでの研究から今回のローカリティのありようを照射していった。

気象にまつわる情報、天気予報などを扱うコーナーの名前は、RABニュースレーダーが「天気予報」、あっぶるワイドが「気象情報」であり、スーパーJチャンネルABAは「J WEATHER」と画面に表示して「天気予報」と呼び、わっち!!ニュースは「天気予報」となっている。4局がともに予報以外の情報に触れていることを鑑み、本稿では統一して、これらのコーナーを「気象情報」とする。ただし各局の分析時は局ごとの呼称を用いる。また、気象情報内の、市町村ごとに明日の天気予報を扱うコーナー名について、各局ともにテロップでの表示はない。各局のアナウンスは、RABニュースレーダーが「40市町村の明日の天気」、あっぶるワイドが「ポイント予報」、スーパーJチャンネルABAが「明日の天気を市町村ごとにお伝えします」、わっち!!ニュースが「ポイント予報」であった。本稿では市町村を対象としたこれら天気予報を扱うコー

ナーについて、「市町村別の明日の天気予報」と呼ぶ。

1-3 青森県内地上波テレビ局概要

青森県の地上波テレビ局には、開局順にNHK青森と民放の青森放送（RAB）、青森テレビ（ATV）、青森朝日放送（ABA）がある。チャンネルは1チャンネルに青森放送、3チャンネルにNHK青森、5チャンネルに青森朝日放送、6チャンネルに青森テレビが割り当てられており、青森放送が日本テレビ系列、青森朝日放送がテレビ朝日系列、青森テレビがTBS系列であることを踏まえると、青森県を訪れた人はまずリモコンに戸惑うかもしれない。東京を中心とした大半の地域では、NHKが1チャンネル、日本テレビ系列が4チャンネルだからである。地元の人々なら当たり前と感じるこのリモコン感覚もローカリティのひとつであるかもしれない。本稿ではチャンネル番号が早いテレビ局から順に番組内容を検討していく。

1-4 青森県の地域区分

青森県の気象情報でよく用いられる地域区分は、津軽・下北・三八上北という、県を大きく3つに区分する単位である。青森地方気象台はこの単位を「一次細分区域」と定めており、こちらを基本に発表を行なっている（青森地方気象台2021）。各テレビ局の気象情報でもこの区分がよく用いられている。

青森県には10の市と30の町村があり、これら町村は郡の単位でまとめられている。津軽に該当する市と郡は、青森市、弘前市、黒石市、平川市、五所川原市、つがる市と、東津軽郡、中津軽郡、南津軽郡、西津軽郡、北津軽郡である。下北には、むつ市と下北郡がある。三八上北は、十和田市、三沢市、八戸市と、上北郡、三戸郡で構成されている。郡の数を比較すると、津軽が5つ、下北が1つ、三八上北が2つとなっており、津軽に郡の数が多い。郡当たりの人口は、三八上北では上北郡が96,904人、三戸郡が67,968人となっている一方で、津軽では最も人口の大きい郡で北津軽郡の38,514人、最も小さい郡が中津軽郡の1,415人である（青森県2020）。

青森地方気象台は、津軽・下北・三八上北という「一次細分区域」をより細

表1 気象庁が定める「一次細分区域」と「市町村をまとめた地域」の地域区分

一次細分区域	該当する市・郡	市町村をまとめた地域
津軽	青森市	東青津軽
	東津軽郡	
	五所川原市	北五津軽
	北津軽郡	
	つがる市	西津軽
	西津軽郡	
	弘前市	中南津軽
	黒石市	
	平川市	
	中津軽郡	
	南津軽郡	
下北	むつ市	(名称なし)
	下北郡	
三八上北	八戸市	三八
	三沢市	
	上北郡のうち2町	
	三戸郡	
	十和田市	上北
	上北郡のうち5町村	

(出所) 青森地方気象台ホームページより筆者作成

町、六ヶ所村)である。上北郡内の7つの町村が、三八と上北で隔てられていることがわかる。

青森県の人口は、最新の国勢調査によると2015年10月時点で1,308,265人であり、津軽が734,060人、下北が74,451人、三八上北が499,754人となっている(青森県 2020)。

分化した地域区分として「市町村をまとめた地域」という区分を用いている。それによると、津軽は東青津軽、北五津軽、西津軽、中南津軽の4つに分けられる。東青津軽は青森市と東津軽郡、北五津軽は五所川原市と北津軽郡、西津軽はつがる市と西津軽郡、中南津軽は弘前市、黒石市、平川市と中津軽郡、南津軽郡である。下北には「一次細分区域」より細かい区分はない。三八上北は2つに分けられる。三八と上北である。三八は八戸市、三沢市と上北郡内の2つの町(おいらせ町と六戸町)と三戸郡、上北は十和田市と上北郡の5つの町(野辺地町、七戸町、横浜町、東北

2 各テレビ局の気象情報の内容

各局の気象情報はどのようなコーナーによって構成されているのだろうか。ここでは各テレビ局が放送する気象情報の内容を簡単に記述し、ローカル局でどのような内容が報じられているのかを示すことで、気象情報全体における「市町村別の明日の天気予報」コーナーの位置づけを確認したい。

RABニュースレーダーはまず、18:47に橋本莉奈アナウンサーの「この時間の青森市の様子をご覧ください」というアナウンスで、青森市のライブ中継を映し出す。青森空港の外の様子も見せた後「詳しい天気予報はコマーシャルの後お伝えします」というアナウンスがある。一旦CMを挟み、18:50から本格的な天気予報となる。全国の予想天気図と県内注意報が紹介され、そして「40市町村の明日の天気」に入る。天気予報全体の時間が7分36秒²であるのに対し、このコーナーには5分8秒³を割いており、天気予報の大半を占めていることがわかる。「市町村別の明日の天気予報」に割く時間としては4局中で最も長い。それから青森市・弘前市・八戸市・むつ市の週間予報、津軽・下北・三八上北と渡島（北海道）の海上の風と波の動きを伝える海予報、県内8地点の降雪量予報、県内7地点の路面凍結予想に水道管凍結指数、主要なスキー場の積雪量や滑走状況を知らせるゲレンデ情報を伝え、天気予報は終了となる。後半4つのコーナーは冬ならではの項目であった。

あっぷるワイドの気象情報は、2回に分けて報じられる。1回目は18:26からの約4分30秒である。まずは気象情報への導入として、気象予報士の阿見武寛氏が平年値の更新について説明する。過去30年間の気温や降水量などの平均値を平年値と呼び、10年に一度更新されているが、今年がその更新の年に当たるという内容である。次に、県内5地点の今日の最高・最低気温、6地点における午後6時の積雪量、注意報、津軽・下北・三八上北と渡島、秋田沿岸、岩手内陸の明日の天気、県内5地点の降雪量予報、海上の風と波の予想、5地点の最高・最低の予想気温を紹介した後、1回目の「ポイント予報」に入る。ここでは青森・弘前・むつ・八戸の、本日21時から翌日21時までの天気と風の向き・強さ、気温が折れ線グラフで示される。そして5地点での水道凍結情報を伝え、1回目の

気象情報を終える。

2回目の気象情報は18:50から始まる。県内10地点における午後6時の積雪の情報を導入とし、日本列島の明日の予想天気図、県内の雨・雪の予想、津軽・下北・三八上北の週間予報を報じる。そして全国の明日の天気、全国の予想最低・最高気温を伝え、週間予報では札幌から東京までの8地域をまず紹介し、次の画面で名古屋から那覇までの同じく8地域を伝える。この計16地域に青森県は含まれず、青森県の近隣で報じられているのは札幌、秋田、仙台である。

画面は一度スタジオに戻り、「ここからは県内の気象情報をお伝えします」とアナウンスが入る。注意報、津軽・下北・三八上北と渡島（北海道）、秋田沿岸、岩手内陸の明日の天気、降雪量予報、海上の風と波の予想が紹介される。この4つは18:26からの1回目の気象情報と画面が同じである。その次が2回目の「ポイント予報」である。18:26からのポイント予報は4地域のみを取り扱ったが、ここではすべての市町村を対象としている。1回目と2回目を合わせた気象情報全体の尺が13分51秒なのに対し、こちらのコーナーは3分49秒となっている。続いて海上予報として、三陸沖を西部と東部に分け、警報や風向、波の高さなどが示される。津軽海峡と日高沖、秋田沖、檜山津軽沖も同様の説明がなされ、明日の満潮と干潮、日の出日の入りの時刻を表示し、最後に津軽・下北・三八上北の週間予報を報じる。この画面も、18:26からの気象情報で用いられたものである。あっぷるワイドは民放3局と比較すると、気象情報を二回に分け、一部同じ内容を繰り返す点と、県内だけでなく全国の気象情報も取り扱う点に特徴がある。

スーパーJチャンネルABAの天気予報は、18:50から始まる。服部未佳アナウンサーはまず、今日から二十四節気の小寒であると説明する。そして「そこで『ソラをライブ』の質問はこちらです」とのアナウンスで画面が切り替わり、「『小寒』きょうの寒さは？」と表示された画面に、4つのアイコンが散りばめられた青森県地図が映し出される。アイコンは青が「小寒」、赤が「中寒」、緑が「大寒」、黄色が「寒くない」と書かれており、「ただ今の参加 363」と表示されている。これはリモコンのカラーボタンやインターネットサイトで視聴者が投票する仕組みとなっており、参加すると自分が選んだアイコンが画面の地図

上に表示される。画面の左下には参加方法が示されている。投票の結果は天気予報の終盤に発表される。

画面は一旦スタジオに戻り、「『小寒』きょうの寒さは？」の質問に対する実感についてアナウンサーたちがトークを繰り広げる。そして全国の予想天気図が示され、次に紹介されるのが「それでは、明日の天気を市町村ごとにお伝えします」とのアナウンスで始まる40市町村の天気予報である。天気予報全体が7分26秒であるのに対し、こちらのコーナーにかかる時間は3分14秒となっており、およそ4割の時間を「市町村別の明日の天気予報」に費やしている。紹介が終わると、県内の注意報、津軽・下北・三八上北に渡島の波情報、県内6地点の週間予報と続き、「ソラをライブ」のコーナーに戻る。「ただいまの参加」は707であり、「小寒」が24%、「中寒」が50%、「大寒」が12%、「寒くない」が14%であるという結果が示される。青森県の地図に散りばめられたアイコンは、青森市や中津軽、三八で多く重なっているようだ。この結果を見ながらスタジオでトークをした後、服部アナウンサーは二十四節気の話の続きとして七十二候「芹乃榮」について説明する。「セリが盛んに育つころ」とのテロップで、弘前市の一町田せりの写真を紹介した。最後にウェザーポイントという画面が表示される。7日から七草大寒波であり、津軽を中心に暴風雪に警戒するよう呼びかけ、天気予報は終了する。

わっち!!ニュースでは18:41に、八戸港と八戸大橋の映像を映し出したスクリーンと、その左側に立つ気象予報士の吉田篤氏を映し出す。「あすの天気のポイント」として、津軽を中心に断続的に雪であることや、今季一番の冷え込みのところもあるという情報が提示される。一旦CMを挟み、18:43から本格的な天気予報が始まる。はじめに「まずはお天気カメラ、弘前です」とのアナウンスが入り、弘前公園の追手門付近の様子が映し出される。画面下側には18時半時点における弘前の気温、積雪、風速、風向が表示されている。続いて、青森県地図を背景に「きょうこれまでの最低・最高気温」が17地点で示される。次に、15地点の総積雪量の画面では、右側に15地点中10地点の積雪量を多い順に並べた表が提示される。続いて「雲の様子と気圧配置」として、日本全国の地図に雲の様子と等圧線が重なった画面となる。

そして、青森県にフォーカスした雲の様子と風向の詳細、全国の明日の予想天気図、県内注意報と続き、ここで登場するのが「ポイント予報」である。県内40市町村の天気を紹介される。このコーナーに割く時間は4局中で最も少なく、2分16秒である。天気予報全体の時間は8分20秒であった。画面はスタジオに戻り、二十四節気「小寒」についての説明がなされる。また、小寒から節分の間に行く稽古として、寒稽古についても紹介があった。そして再び天気予報に戻り、県内7地点の降雪情報、8地点の水道管凍結情報、波の高さや風向、満潮や干潮、日の出日の入りを時刻を示す「あすの海予報」を経て、最後に津軽・下北・三八上北の週間予報が示される。この画面には青森市の一週間の予想最低・最高気温も表示されている。画面はスタジオに戻り、お天気に関する写真の投稿と情報のメールの募集を呼びかけ、天気予報を閉じる。

このように4局の内容を書き出すと、気象情報の内容には単に天気を「科学的」に分析して表象するだけではない、地域性が表出した項目が盛り込まれていた。この時期は雪や寒さに関する情報が多い。降雪がほとんどない地域では、このような内容にはならないだろう。

時間配分を振り返ると、各テレビ局は7分半から14分弱を気象情報に割いていた。30分番組である「NHKニュース7」の気象情報が3分に満たないことと比較して、ローカル局の気象情報が長尺であることがわかる。そして、「市町村別の明日の天気予報」には各局が2分から5分ほどの時間をかけている。各局ともに、最も時間をかけているコーナーとなっていた。

3 「市町村別の明日の天気予報」分析

3-1 RABニュースレーダー「40市町村の明日の天気」

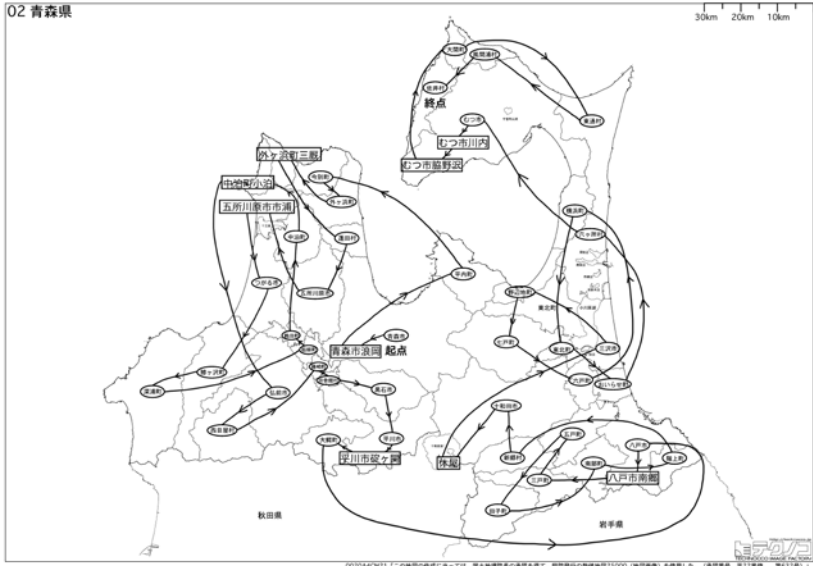


図2 RABニュースレーダー「40市町村の明日の天気」における市町村の順序(出所)テクノココの青森県地図<https://technoco.jp/n_map/dl/0020/aomori2_cm.pdf>より筆者作成。市町村以外で紹介されている地域は新たに書き加え、四角で囲んだ。合併により飛び地となっている自治体は、役場があるほうの自治体の名前を丸で囲んでいる。

ここからは各局別に「市町村別の明日の天気予報」を見ていく。RABニュースレーダーは最初に北東北の地図を映し出し、そこから青森県、そして陸奥湾沿岸の地域へとフォーカスしていく。はじめに紹介されるのは青森市、青森市浪岡、平内町である。6時から24時まで3時間ごとの天気、最高気温と最低気温、6時間ごとの降水確率が、市町村ごとに表示されている。地図は青森県全体が黄緑色で、紹介している市町村が黄色く色付けされている。同じ背景で、続いて今別町、外ヶ浜町、外ヶ浜町三厩、蓬田村と、陸奥湾沿岸の市町村が紹介さ

れる。

県庁所在地である青森市を筆頭とした東青津軽を紹介したのち、画面は青森県の西側に移動する。五所川原市、五所川原市市浦、つがる市、鱒ヶ沢町、深浦町、そして同じ背景のまま板柳町、鶴田町、中泊町、中泊町小泊と続く。県内の区域でいえば、北五津軽と西津軽である。それから、弘前市、西目屋村、藤崎町、田舎館村、そして表示が変わって黒石市、平川市、平川市碓ヶ関、大鰐町が表示される。中南津軽のエリアである。ここまで、東青津軽から北五津軽、西津軽、中南津軽と、津軽の市町村を紹介した。

続いて紹介されるのは、飛んで県の東側である。八戸市、八戸市南郷、三戸町、五戸町、そして同じ背景のまま田子町、南部町、階上町、新郷村と続く。県内第2位の人口を抱える八戸市、そして八戸市を中心とした生活圏が形成されている三戸郡を紹介したのち、画面は北側に移っていく。十和田市、休屋、三沢市、野辺地町、七戸町、そして表示が変わって六戸町、横浜町、東北町、おいらせ町、六ヶ所村と続く。上北と三八の一部のエリアである。画面はさらに北側へと移動する。下北半島である。むつ市、むつ市川内、むつ市脇野沢とむつ市内を3箇所紹介した後、同じ背景のまま大間町、東通村、風間浦村、佐井村が表示され、「市町村別の明日の天気予報」は終了する。最後のエリアは下北であった。

気象庁は青森県の天気を扱うとき、津軽・下北・三八上北という順序を使用することが多いが、RABニュースレーダーは津軽・三八上北・下北という、下北と三八上北が入れ替わった順序で天気を報じていた。また、「40市町村の明日の天気」と銘打たれたこちらのコーナーだが、紹介された地域を数えると全部で49箇所になっていた。市町村名に地名を加えた形で紹介された地域は、青森市浪岡、外ヶ浜町三尻、五所川原市市浦、中泊町小泊、平川市碓ヶ関、八戸市南郷、むつ市川内、むつ市脇野沢である。この8箇所は、いずれも市町村合併により吸収された地域であり、市町村名の後につく地名は消滅した町村の名前となっている。合併した市町村の中でも天候に違いが見られる地域に限り、改めて別枠として表示しているのだと考えられる。残り1つ、休屋は2004年まで存在していた十和田湖町の一部である。こちらは十和田湖の湖畔に接する地域であり、十和田市の中でも気候が異なると想定される。

3-2 あっぶるワイド「ポイント予報」

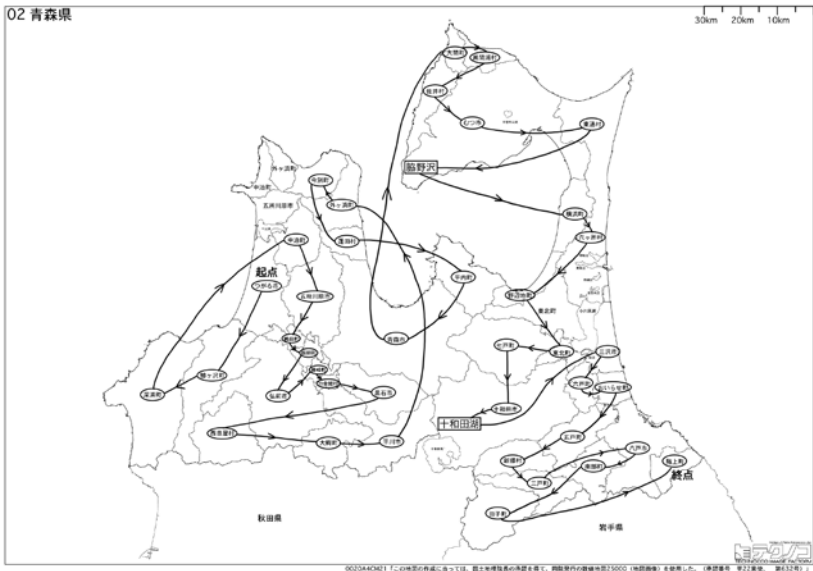


図3 あっぶるワイド「ポイント予報」における市町村の順序

(出所) 図2に同じ。なおNHK青森は市町村名において市・町・村の表記を省いている。

あっぶるワイドは、青色の青森県地図を表示し、紹介する市町村を黄緑色で示している。まず最初に紹介されるのは青森県の西側、つがる、鱈ヶ沢、深浦である。西津軽が紹介の出発点となった。表示されている内容は、今日21時から明日24時までの3時間ごとの天気予報に、最高気温と最低気温であり、降水確率はない。RABニュースレーダーと比較すると、天気を表示する時間帯が9時間増えており、降水確率が省かれている。次の画面に切り替わると、黄緑色で示された地域はより内側に移動する。中泊、五所川原、鶴田、板柳は北五津軽である。次の画面には、弘前、藤崎、田舎館、黒石が映し出され、画面が切り替わると西目屋、大鰐、平川が表示される。2つの画面にわたって中南津軽が紹介された。

黄緑色で表示される地域は北上し、陸奥湾沿岸に移動する。外ヶ浜、今別、

蓬田、平内、青森は東青津軽のエリアである。RABニュースレーダーで最初に紹介された青森市は、ようやくここで19番目に登場した。画面内の順序は一番下の位置である。そして画面は飛んで下北半島に移る。大間、風間浦、佐井を経て、むつ、東通、脇野沢に至る。下北をすべて紹介したのち、地図は南下し、横浜、六ヶ所、野辺地、東北を映し出す。上北の北部である。その次の画面では、七戸、十和田、十和田湖であり、上北の紹介を終える。画面は切り替わり、三沢、六戸、おいらせ、五戸、新郷が表示される。次の画面が最後である。三戸、八戸、南部、田子、階上が表示され、2つの画面で三八を紹介した。

あっぷるワイドが表示する地域名は、市町村名から市・町・村を省いている。また、RABニュースレーダーと同じく、あっぷるワイドにおいても紹介する地域は40市町村より多く、42市町村となっていた。市町村以外の2つの地域は、脇野沢と十和田湖である。脇野沢はRABニュースレーダーでも取り上げられている。天気予報の内容を見ると、合併したむつ市と脇野沢では気象に差が見られる。むつは9時で雪がやむのに対し、脇野沢は21時まで雪が降り続けるのである。脇野沢は下北半島の西南の先であり、海に面しているため、むつ市中心部とは気候の差異が大きいと考えられる。十和田湖は、RABニュースレーダーでも休屋という地域が取り上げられていたように、2004年まで存在していた十和田湖町にあたる地域である。合併した十和田市の面積は県内で3番目に広く、地域によって気象の違いが大きいのだと考えられる。

あっぷるワイドは、津軽・下北・三八上北という、気象庁と同じ順序で気象を報じていた。はじめに津軽を紹介するという点ではRABニュースレーダーと同じだが、津軽の紹介の順序はまったく異なる。RABニュースレーダーは青森市を含む東青津軽を先頭に、北五津軽、西津軽、中南津軽の順であるのに対し、あっぷるワイドは西津軽、北五津軽、中南津軽、東青津軽の順であった。また、RABニュースレーダーは市を挟みつつ基本的に郡単位にて紹介するのに対し、あっぷるワイドでは郡が入り乱れながら紹介されている部分がある。藤崎、田舎館と南津軽郡の一部を紹介してから、黒石（黒石市）、西目屋（中津軽郡）を挟んで、再び南津軽郡の大鰐町を紹介するのである。郡の範囲に関わりなく、画面に映し出された市町村を北から順に紹介しようとする姿勢が読

み取れる。これは青森地方気象台の「市町村をまとめた地域」の区分からはみ出ない。画面に映し出す地域ブロックの順序は、津軽は概ね西から東へ、下北と三八上北は北から南へととなっているようだ。

3-3 スーパーJチャンネルABA「明日の天気（市町村ごと）」

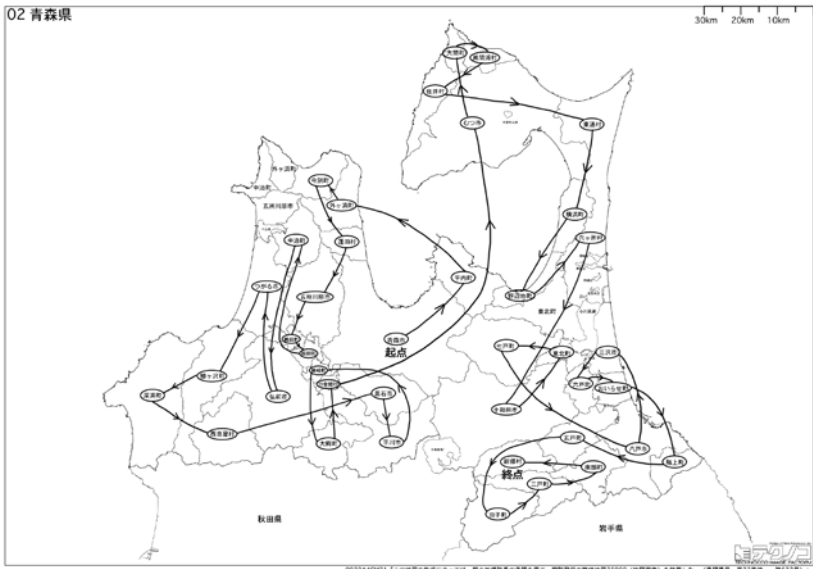


図4 スーパーJチャンネルABA「明日の天気（市町村ごと）」における市町村の順序

(出所) 図2に同じ

RABニュースレーダーと同じく、スーパーJチャンネルABAの画面ははじめに北東北の地図を映し出し、そこから青森県、そして陸奥湾沿岸の地域へとフォーカスしていく。表示されている市町村は上から順に外ヶ浜町、今別町、蓬田村、平内町、青森市だが、これは地図上の配置に天気表示を合わせたものであり、アナウンスは青森市、平内町、外ヶ浜町、今別町、蓬田村の順序である。最初の画面が扱ったのは東青津軽だった。内容はRABニュースレーダーと同じであり、6時から24時まで3時間ごとの天気、最高気温と最低気温、6時

間ごとの降水確率が伝えられる。

画面表示とアナウンスにおいて、順序の違いは続く。次の画面は、表示では中泊町、五所川原市、鶴田町、板柳町であり、アナウンスは五所川原市、鶴田町、板柳町、中泊町の順となっている。北五津軽のエリアである。続いての画面は、つがる市、鱒ヶ沢町、深浦町、弘前市、西目屋村の順に画面に表示され、アナウンスは弘前市、つがる市、鱒ヶ沢町、深浦町、西目屋村となっていた。ここは中南津軽の一部と西津軽である。画面は東へ移動し、藤崎町、田舎館村、黒石市、大鰐町、平川市を映し出す。アナウンスは黒石市、平川市、藤崎町、大鰐町、田舎館村の順序となっていた。こちらは中南津軽の残りのエリアであった。

津軽に続いて紹介されるのは下北である。下北半島の地図を背景に、大間町、風間浦村、佐井村、東通村、むつ市の天気で紹介される。アナウンスはむつ市、大間町、風間浦村、佐井村、東通村となっている。下北を紹介すると地図は南下し、横浜町、六ヶ所村、野辺地町が表示される。アナウンスの順序は横浜町、野辺地町、六ヶ所村である。ここから上北の紹介が始まった。続いての画面は、東北町、七戸町、十和田市であり、アナウンスは十和田市、東北町、七戸町となっている。ここで上北の紹介が終わる。次の画面ではさらに南下し、三沢市、六戸町、おいらせ町、八戸市、階上町が映し出される。アナウンスの順番は八戸市、三沢市、六戸町、おいらせ町、階上町となっている。そして最後の画面には、五戸町、新郷村、南部町、三戸町、田子町が映る。アナウンスの順番は五戸町、田子町、三戸町、南部町、新郷村である。前の画面に引き続き、三八の紹介を終え、このコーナーは終了となる。

画面表示の市町村の順序とアナウンスの順序の違いは、なぜ生み出されているのだろうか。すべての画面において、画面表示とアナウンスの順序は一致しなかった。画面表示は、表示された範囲の地図における市町村の位置に、それぞれの天気を置いていく形である。アナウンスの順序を司るものは何だろうか。まず気づくことは、どの画面でも市を最初に読み上げ、次に町、最後に村という順序でアナウンスしている点である。自治体区分の大きさが、アナウンスの順序を司るひとつの論理となっていた。また、2015年時の国勢調査における市町村の人口と照らし合わせると、アナウンスの順序が人口の大きさの順序と同

じである画面が9つ中3つあった。比較的小さな人口の差で市町村の順序が入れ替わっている地域も含めると、5つの画面が基本的に人口順と重なることがわかる。人口の大きさは、アナウンスの順番を司るふたつ目の論理である。

しかし、人口の大きさでは説明のつかない画面が4つある。下北と三八上北では5つの画面中4つで順序が人口と転倒している。例えば6つ目の画面、アナウンスの順序は横浜町、野辺地町、六ヶ所村であった。横浜町の人口は2015年10月において4,535人、野辺地町は13,524人、六ヶ所村は10,536人である。村である六ヶ所村のほうが、町である横浜町より人口が大きく、これが転倒の理由のひとつであろう。しかし、これだけではこの順序を説明しきれていない。なぜ野辺地町より横浜町が最初に呼ばれるのか。この画面のほかにも、自治体区分の大きさの順序、人口の大きさの順序、市町村区分における人口規模の転倒だけでは説明することのできない画面が4つある。これらの論理や例外のほかに、まずは地図上の順序という論理もあるように見受けられる。また、ここで考えられるのは、その地域における地理の把握の仕方である。

例えば下北半島では、むつ市、大間町、風間浦村、佐井村、東通村の順序でアナウンスがなされていた。人口は順に、58,493人、5,227人、1,976人、2,148人、6,607人である。市町村区分の順序と人口の大きさを踏まえると、本来であれば東通村が3番目に呼ばれるべきである。そして佐井村と風間浦村は順序が逆転するはずだ。しかし下北半島には、歴史的な地理の感覚がある。むつ市の田名部を出発点に、風間浦村、大間町、佐井村を結ぶルートは「北通り」と呼ばれてきた。藩政時代に、政治的な側面と交易による物流から整えられたこの道は、下北半島における主要な街道として機能した。近年では、大間町、風間浦村、佐井村の3町村によって建設された文化施設が「北通り総合文化センター『ウイング』」（傍点は筆者による）と命名された⁴。この施設名は公募によって決定しており、北通りという地理の感覚が下北地方の人々にあることが窺える。この背景を踏まえると、アナウンスの順序も肯けるだろう。下北半島以外の地域にも、このように地域における地理の感覚があるのだと想定される。

このほか、スーパーJチャンネルABAの特徴としては、まずRABニュースレーダーと同じく、アナウンスにおいて青森市から紹介している点が挙げら

れる。また、RABニュースレーダーとあっぶるワイドは40市町村以外の地域の天気も取り扱っていたが、こちらは40市町村のみの紹介であった。

3-4 わっち!! ニュース「ポイント予報」

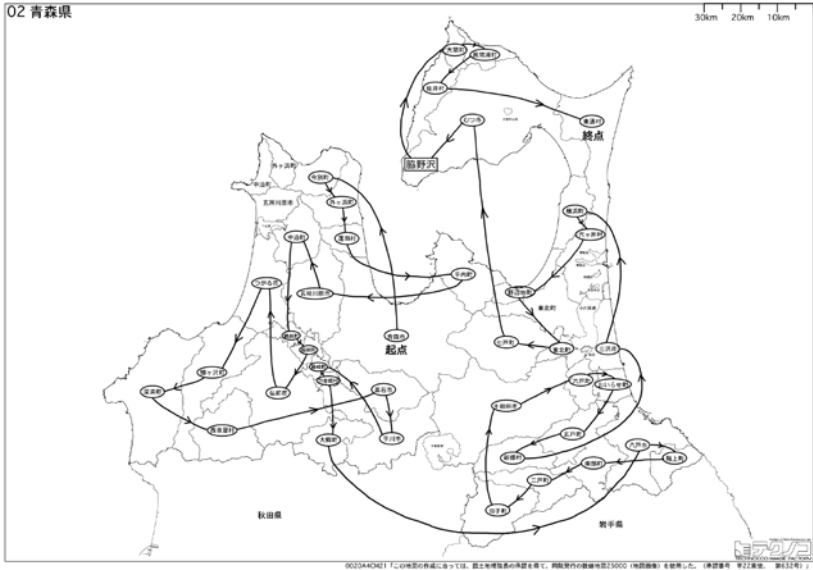


図5 わっち!!ニュース「ポイント予報」における市町村の順序
(出所) 図2に同じ

わっち!!ニュースの画面は、最初に青森県全体の地図を映してから、津軽地方にフォーカスしていく。まず表示されるのは、青森市、今別町、外ヶ浜町、蓬田村、平内町である。RABニュースレーダー、スーパーJチャンネルABAと同じく、最初の画面で東青津軽を紹介していた。紹介する内容は、6時から25時までの3時間ごとの天気予報と、最低・最高気温である。あっぶるワイドと同じく、降水確率は表示されない。続いて、背景の地図の位置は変わらないまま、五所川原市、中泊町、鶴田町、板柳町が紹介される。北五津軽のエリアである。背景の地図が南下し、次は弘前市、つがる市、鱒ヶ沢町、深浦町、西目屋村が表示される。中南津軽の一部と西津軽である。背景は東に移動し、

黒石市，平川市，藤崎町，田舎館村，大鰐町を映し出す。中南津軽の残りのエリアを表示して，津軽地方の紹介が終わる。

ここで画面はさらに東へ移動する。三八上北である。まずは八戸市，階上町，南部町，三戸町，田子町が表示される。三八の一部である。画面が切り替わると，背景の地図の位置は変わらないまま，十和田市，六戸町，おいらせ町，五戸町，新郷村が紹介される。上北の一部と三八の残りの町村である。あっぷるワイドにおいて津軽を報じる際に郡が入り乱れている箇所があったように，ここでも三戸郡と上北郡が混在して並べられていた。地図は北上し，三沢市，横浜町，六ヶ所村，野辺地町，東北町，七戸町を表示する。ここで上北の紹介が終わる。そして最後の画面，背景の地図は下北半島を映し，むつ市，脇野沢，大間町，風間浦村，佐井村，東通村の天気を示す。下北を最後に「ポイント予報」のコーナーは終了する。

R A Bニュースレーダーやあっぷるワイドと同じく，わっち!!ニュースも40市町村のほかに脇野沢の天気を紹介していた。また，津軽・三八上北・下北という順序は，R A Bニュースレーダーと同じであった。

4 考察——「市町村別の明日の天気予報」における4局の共通性と差異

ここまで，各局の「市町村別の明日の天気予報」を見てきた。市町村の紹介の順序を振り返ると，4局の方法に共通性と差異が見えてくる。まず最も大きな共通性は，4局すべてが津軽・下北・三八上北の区分を用いて順序を構成しているということである。例えば津軽地方の市町村を紹介する途中で下北地方の市町村が入り混じるような紹介は見られない。津軽・下北・三八上北という区分は4局の天気予報の根底をなす秩序である。さらに，この3つの区分で最初に必ず津軽を紹介するという点も4局に共通している。一方，津軽の次に下北と三八上北のどちらを紹介するかという点においては，対応が二分している。R A Bニュースレーダーとわっち!!ニュースは津軽・三八上北・下北の順，あっぷるワイドとスーパーJチャンネルA B Aは，津軽・下北・三八上北の順であった。

最初に津軽地方が紹介されるという点では4局に違いがないが、津軽の紹介の仕方には、NHKと民放3局で大きな違いが見られた。最初に青森市を紹介するか否か、という点である。民放3局はまず最初に、県庁所在地である青森市、そして東津軽郡を紹介する。それに対しNHKは、最初につがる市、そして西津軽郡を紹介した。津軽地方を紹介するのに際し、県の西側から入ったのである。青森市は津軽地方の最後に紹介され、画面上の表示における5市町村の順序も一番下であった。津軽・下北・三八上北の区分のなかで一定の方角に進むように紹介しようとするNHKと、諸要素を加味して順序を決める民放とでは、姿勢が大きく異なっている。青森市に対する取り扱いの論理は、県内第二位の都市、八戸市の取り扱いにも現れている。NHKは最後の画面で、三戸、八戸、南部、田子、階上の順序で三八を紹介した。一方で民放3局は、八戸市を含む画面において、RABニュースレーダーが八戸市、八戸市南郷、三戸町、五戸町の順序、スーパーJチャンネルABAが八戸市、三沢市、六戸町、おいらせ町、階上町の順序（アナウンス）、わっち!!ニュースが八戸市、階上町、南部町、三戸町、田子町の順序となっていた。民放では八戸市が1番目に紹介されるのである。

画面上で何度も青森県地図が用いられ、市町村と地域ごとの区分によって天気が表示されるという表象は、先に小林が全国の気象情報に指摘したことと同じように、青森県という単位を人々に無意識にでも認識させるだろう。40市町村から成り立つ青森県という理解である。そして必ず津軽・下北・三八上北の区分が用いられることによって、視聴者は青森県を大きく3つに分ける感覚を持つはずである。気象情報はこのような感覚を再生産する役割を果たしているのである。

また、津軽・下北・三八上北のなかで必ず津軽が最初に紹介される点、そして4局中3局が青森市を起点に紹介を始める点は、青森県の人々に、津軽、そして青森市を中心とした地理感覚をもたらしているだろう。他県と比較すると、この地理感覚が当然のものではないことがわかる。例えば新潟県では、上越・中越・下越・佐渡という一次細分区域がある。新潟県内地上波テレビ局5局の夕方のニュース番組を視聴したところ、「市町村別の明日の天気予報」において、

この上越・中越・下越・佐渡の順序で天気が伝えられていた⁵。県庁所在地である新潟市は下越であり、予報の終盤に扱われるのである。青森県のテレビ局は4局中3局が青森市を起点に天気を紹介しているが、県都から紹介するというこの形式は、決して自明ではないのである。

5 おわりに

気象情報は「自然」な現象を「科学的」に分析して表象するという、ニュートラルなものでは決してない。ローカルニュース番組の気象情報において、市町村の順序は多分に地域特有の秩序の影が見られた。地域の地理感覚をもとに気象情報は構成され、その秩序は再生産されていく。生活のなかでこの区分を意識することがなくとも、津軽・下北・三八上北はメディアを通して継承されるのである。メディアのなかでも気象情報におけるテレビの地位は、依然として高いだろう。青森市を起点としてはじめに津軽が紹介され、地図が動いて下北や三八上北に回っていくというこの映像こそが、テレビと気象情報の親和性をもたらしたひとつの表現であり、津軽、そして青森市を中心として青森県を把握するという地理感覚の醸成に貢献しているのである。この地理感覚は、テレビがもたらしたローカリティのひとつの側面ではないだろうか。

県庁所在地の自治体から市町村を紹介しない事例として、今回は新潟県を挙げた。「市町村別の明日の天気予報」における市町村の順番だけでなく、このコーナーに対する力の入れようも青森県と新潟県で異なるようだ。NST新潟総合テレビでは「市町村別の明日の天気予報」にあたるコーナーを設けておらず、「明日の天気」は7市のみを対象としている。BSN新潟放送にはこちらに該当するコーナーがあるものの、紹介する地域数は15に留まっている。UX新潟テレビ21では県内30市町村すべての天気を紹介しており、TeNYテレビ新潟はこれに新潟市内8つの区を加えた38の市区町村を紹介していた。最も地域数が多かった局がNHK新潟の41である。青森県のテレビ局が4局すべてで県内40市町村以上の地域を紹介していたことを鑑みると、市町村別に重きを置くこと自体がローカリティのひとつなのかもしれない。

また、新潟県において注目すべきは佐渡市の扱いであろう。「市町村別の明日の天気予報」にてNHK新潟は佐渡市内を4箇所、BSN新潟放送は3箇所取り上げている。BSN新潟放送においては、このコーナーで紹介する15地域のうち3地域が佐渡市内なのである。このように、市町村別の天気予報の紹介は青森県と新潟県で差異が見られるため、今回の青森県の分析結果を全国のローカル局の方法として一般化することはできない。

今後の課題としては、全国のローカルニュース番組における気象情報の映像を収集・分析し、市町村の紹介の順序においてどのような共通性と差異があるのかを考察することである。ローカル局の気象情報がいかなるローカリティを生産／再生産し、公共圏を形成してきたのか、本稿は地域における秩序の側面からローカリティを思考する試みの、足掛かりのひとつである。

注

- 1 自主制作チャンネルは現在1チャンネルであり、気象に関する情報はデータ放送の形で提供されている。
- 2 気象情報全体の時間のカウント方法は、気象情報を示す画面が表示された時刻、もしくは気象予報士や天気を担当するアナウンサーが登場した時刻を始点とし、気象情報関連の情報を示す内容から画面が切り替わる時刻を終点として計測した。
- 3 「市町村別の明日の天気予報」の時間のカウント方法は、前のコーナーの画面から、青森県地図を背景として市町村の天気予報の画面へと切り替わる時刻を始点とし、次のコーナーの画面に変わる時刻を終点として計測した。
- 4 ホームページにも大間町、風間浦村、佐井村の順序で表記がなされている（公益財団法人下北北通り地域振興財団 2021）。
- 5 2021年2月に視聴。下越の途中で佐渡が入ることがある（TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21）。

引用・参考文献

- 青森県, 2020, 「青森県の人口と面積」, 青森県ホームページ, (2021年1月22日取得, <http://www.pref.aomori.lg.jp/k-kensei/jinkou.html>).
- 青森地方気象台, 2021, 「よくある質問と答え」, 青森地方気象台ホームページ, (2021年1月22日取得, <https://www.jma-net.go.jp/aomori/koho/sonota/faq.html>).
- 青森地方気象台編, 1986, 『青森の気象百年』青森地方気象台.
- 樋口喜昭, 2014, 「初期のラジオ放送にみるローカリティの多面性」『マス・コミュニケーション研究』(84): 67-88.
- 気象庁編, 1975, 『気象百年史』日本気象協会.
- 小林直毅, 2005, 「気象情報の国土論」伊藤守編『テレビニュースの社会学』世界思想社, 168-191.
- 公益財団法人下北北通り地域振興財団, 2021, 北通り総合文化センター「ウイング」ホームページ, (2021年1月22日取得, <http://www.wingkita.jp/index.html>).
- 水出幸輝, 2020, 「〔研究ノート〕天気予報のメディア史序説」『京都メディア史研究年報』(6): 67-84.
- 田子町編, 1996, 『たっこニューウェーブ——1996年度-2005年度 第4次田子町総合計画 ダイジェスト版』田子町.
- 若林悠, 2019, 『日本気象行政史の研究——天気予報における官僚制と社会』東京大学出版会.